

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>		-		<b>3.9</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.6</b>	0.15		-		<b>3.6</b>
1.1 室内騒音レベル		輻射冷暖房システムによる空調騒音の低減		<b>4.0</b>	0.40		-		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40		-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60		-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-		
1.3 吸音		天井:岩綿吸音板 床:タイルカーペット		<b>4.0</b>	0.20		-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.9</b>	0.35		-		<b>3.9</b>
2.1 室温制御				<b>2.8</b>	0.50		-		
1 室温				2.0	0.38		-		
2 外皮性能		ダブルスキン+庇		4.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御		夏季50%RH、冬季50%RHを満たす設備容量を確保		<b>5.0</b>	0.20		-		
2.3 空調方式		執務室、町民ロビーに放射空調を採用		5.0	0.30		-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.9</b>	0.25		-		<b>3.9</b>
3.1 昼光利用				<b>5.0</b>	0.30		-		
1 昼光率		昼光率2.5%以上		5.0	0.60		-		
2 方位別開口					-	5.0	-		
3 昼光利用設備		ハイサイドライト、採光反射板設置		5.0	0.40		-		
3.2 グレア対策				<b>4.0</b>	0.30		-		
1 昼光制御		ブラインド、庇		4.0	1.00		-		
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15		-		
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25		-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>4.1</b>	0.25		-		<b>4.1</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50		-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材の採用		4.0	1.00		-		
4.2 換気				<b>3.6</b>	0.30		-		
1 換気量				3.0	0.33		-		
2 自然換気性能				3.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮		外気取り入れ口をピット内とし、汚染源との距離を確保		5.0	0.33		-		
4.3 運用管理				<b>5.0</b>	0.20		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視		空調機にCO <sub>2</sub> 制御を導入		5.0	0.50		-		
2 喫煙の制御		建物内禁煙		5.0	0.50		-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>		-		<b>4.0</b>
<b>1 機能性</b>				<b>4.0</b>	0.40		-		<b>4.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.3</b>	0.40		-		
1 広さ・収納性				3.0	0.33		-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33		-		
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の基準を満たす		4.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性				<b>5.0</b>	0.30		-		
1 広さ感・景観		天井高2.9m以上		5.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース 自動販売機		5.0	0.33		-		
3 内装計画		木材の多用 コンセプトにあわせた内装計画・照明計画 インテリアパース		5.0	0.33		-		
1.3 維持管理				<b>4.0</b>	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い内装材、庇による汚れにくい外壁等		5.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>4.5</b>	0.30		-		<b>4.5</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>5.0</b>	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた50%増の耐震性を有する		5.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能		免震構造		5.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>4.5</b>	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数		品確法劣化対策等級3相当である		5.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		外壁:RC打ち放し 65年、屋根:アスファルト防水 30年		5.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:ビニール床シート・カーペット 20年 内壁:ビニルクロス貼(合板・GL工法下地共) 20年 天井:ボード類・ビニルクロス貼 30年、合成樹脂吹付 20年		5.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ピット内ダクトはステンレス製:Cとして計画		4.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管VLP:B、汚水雑排水配管VP:B、 給湯配管SUS:C		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				<b>3.6</b>	0.20		-		
1 空調・換気設備		重要室空調機器を発電機回路に組み込む計画		5.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備		節水器具、緊急排水槽、中水利用を計画		4.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		

	4	機械・配管支持方法	3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	3.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.4</b>	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	4.5m 4.2m 4.0m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	1階壁長さ比率 0.11	4.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	3.0	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>5.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>4.3</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>4.9</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>4.0</b>	0.10	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>5.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	BEMSの使用	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	運用時に設備性能検証、コミッションングを行う	5.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>4.2</b>	0.20	-	-	<b>4.2</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>4.4</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用システムを導入し、雨水利用率20%以上を計画	5.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>4.0</b>	0.60	-	-	<b>4.0</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>			5.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			5.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>4.0</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			<b>5.0</b>	0.33	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>4.1</b>	0.33	-	-	<b>4.1</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>5.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>4.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.5</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な駐輪場・駐車場計画 駐車場出入口を2か所確保(利用者用・管理用)	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明なし	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	